

助成者	小関 皆乎	活動期間	2021年4月～2023年7月
所属機関	藪の傍	職名	代表

カンボジアにおける資源循環型農業の確立をベースとした教育支援システムの構築

－ 自立できる農家の育成と学校菜園の開設による次世代の教育 －

【活動場所】 カンボジア リエンポン村

【事業目的】 環境に恵まれない貧村において、風土や伝統を考慮したカンボジア独自の環境保全型農業を確立させ、土地に根ざした誇れる仕事として農業で自立した生計が成り立つことを目的とする。まず環境保全型研修センターを設立し、有機農業法を共同で作業しつつ学ぶ機会を提供し、環境への意識を高めていく。循環型農法の一環として養鶏にも取り組み、次代の指導者を育て、最終的には村人の自治による農業協同組合の設立・運営を目指す。

有機栽培研修



【活動内容】

- ①環境保全型研修センター整備、農業協同組合発足（加入員現状15世帯）
- ②養鶏家育成：研修、鶏の貸し出し、鶏舎建設（15世帯）
- ③農業教育プログラムの実施（農林水産局員がセンター圃場で週1度実施）
- ④販路構築（コロナ下で日本食2店舗に留まる。今後ローカル店へ広げていく）

【活動成果】

コロナの影響でシムリアップへの販路拡大計画と、指導者の渡航も出来ないなど厳しい環境下での事業となった。有機栽培は団体圃場での成果は上がってきたが、各農家での実施・継続性はまだ欠ける状況。農業研修実施後の課題として、農民は目先の生活費が優先するため意識的な改善が必要であり、団体圃場を一部土地を持たない人へ無償貸出するなどを試みる。養鶏家育成は鶏舎建設から支援を進め、少しずつ収入にも繋がっている。雨期の時期の環境悪化が酷くセンター内の炊事場嵩上げ工事を支援。事業はまだ初期段階であり、アフターコロナでの販路拡大も期待できる。センターを中心とした当プロジェクトが、今後も着実に成果が生まれることを期待する。

鶏舎の建設と貸与

